

2026年3月期 第2四半期

Fly to the next stage!

決算説明資料

ヤマシンフィルタ株式会社
2025年11月20日



| エグゼクティブサマリー

- ◆ 第2四半期では創業以来過去最高の売上高、四半期純利益を更新
- ◆ 通期業績見通し・配当予想を上方修正、創業以来過去最高の連結業績を更新見通し、新規事業立ち上げに伴う先行投資・コスト増を織り込み
- ◆ 新規事業によるエクイティストーリー「YAMASHIN FILTER VISION 2030」を公表予定

事業環境	2026年3月期 第2四半期累計業績動向	2026年3月期見通し
市場 建機用フィルタ エアフィルタ ビジネスモデル別 ライン 補給 地域別 日本 北米 中国 アジア 欧州 主要原材料 エネルギーコスト 高止まり 高止まり	連結売上高： 102億89百万円 前年同期比： 3.8%増収 連結営業利益： 13億71百万円 前年同期比： 0.3%減益 ※自己資本比率： 82.8% 建機用フィルタ エアフィルタ 92億3百万円 10億86百万円 前年同期比： (+6.2%) 前年同期比： (△12.4%)	連結売上高： 208億40百万円 期初予算比： 2.1%増収 連結営業利益： 28億70百万円 期初予算比： 5.5%増益 ※自己資本比率： 80.4% 建機用フィルタ エアフィルタ ・ライン品需要は堅調に推移する見通し ・補給品は在庫調整の影響があるものの、需要は堅調に推移する見通し ROICの改善が急務

| 2026年3月期 第2四半期実績

2026年3月期第2四半期実績（2025/7-9）

PLセグメント別（連結、建機、エア）

- ◆ 建機の新車需要回復により大幅な増収となるが、前年度好調であった補給品売上高の一時的な反動減およびエアフィルタ事業の業績低迷により若干の減益

		2025/3期 Q2 実績	2026/3期 Q2 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
売上高		5,091	5,193	102	2.0%
	建機用フィルタ※	4,450	4,647	196	4.4%
	エアフィルタ	640	546	△94	△14.7%
営業利益（セグメント利益）		776	712	△64	△8.3%
	建機用フィルタ※	759	733	△26	△3.5%
	エアフィルタ	17	△20	△38	△220.3%
営業利益率		15.3%	13.7%	△1.5Pt	
経常利益		876	702	△173	△19.8%
経常利益率		17.2%	13.5%	△3.7Pt	
四半期純利益		483	492	8	1.7%
四半期純利益率		9.5%	9.5%	△0.0Pt	
為替レート（円） （期中平均値）	USD	152.6	146.0	△6.6	△4.3%
	EUR	165.9	168.1	2.1	1.3%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

- ◆ 新車需要の回復によりライン品の売上高が大きく伸長、補給品需要は前年比では減収も堅調維持

■ 製品別売上高

		2025/3期 Q2 実績	2026/3期 Q2 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ		4,092	4,277	185	4.5%
	ライン品	1,334	1,686	351	26.3%
	補給品	2,757	2,591	△165	△6.0%
産業用フィルタ		183	196	13	7.4%
プロセス用フィルタ		175	172	△2	△1.6%
建機用フィルタ 合計		4,450	4,647	196	4.4%
エアフィルタ		640	546	△94	△14.7%
売上高合計		5,091	5,193	102	2.0%

2026年3月期第2四半期実績（2025/7-9） 売上高（地域別）

◆ 新車需要の回復や中国市場における大型建機向け需要増により増収

■ 地域別売上高

		2025/3期 Q2 実績		2026/3期 Q2 実績		前年同期比	
		金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※		4,450	87.4%	4,647	89.5%	196	4.4%
	国内	1,784	35.1%	1,773	34.2%	△11	△0.6%
	北米・南米	1,150	22.6%	1,189	22.9%	38	3.4%
	中国	252	5.0%	443	8.5%	191	75.8%
	アジア	723	14.2%	728	14.0%	5	0.7%
	欧州	539	10.6%	479	9.2%	△59	△11.1%
	その他（中東他）	—	—	32	0.6%	32	—
エアフィルタ（国内）		640	12.6%	546	10.5%	△94	△14.7%
売上高合計		5,091	100.0%	5,193	100.0%	102	2.0%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

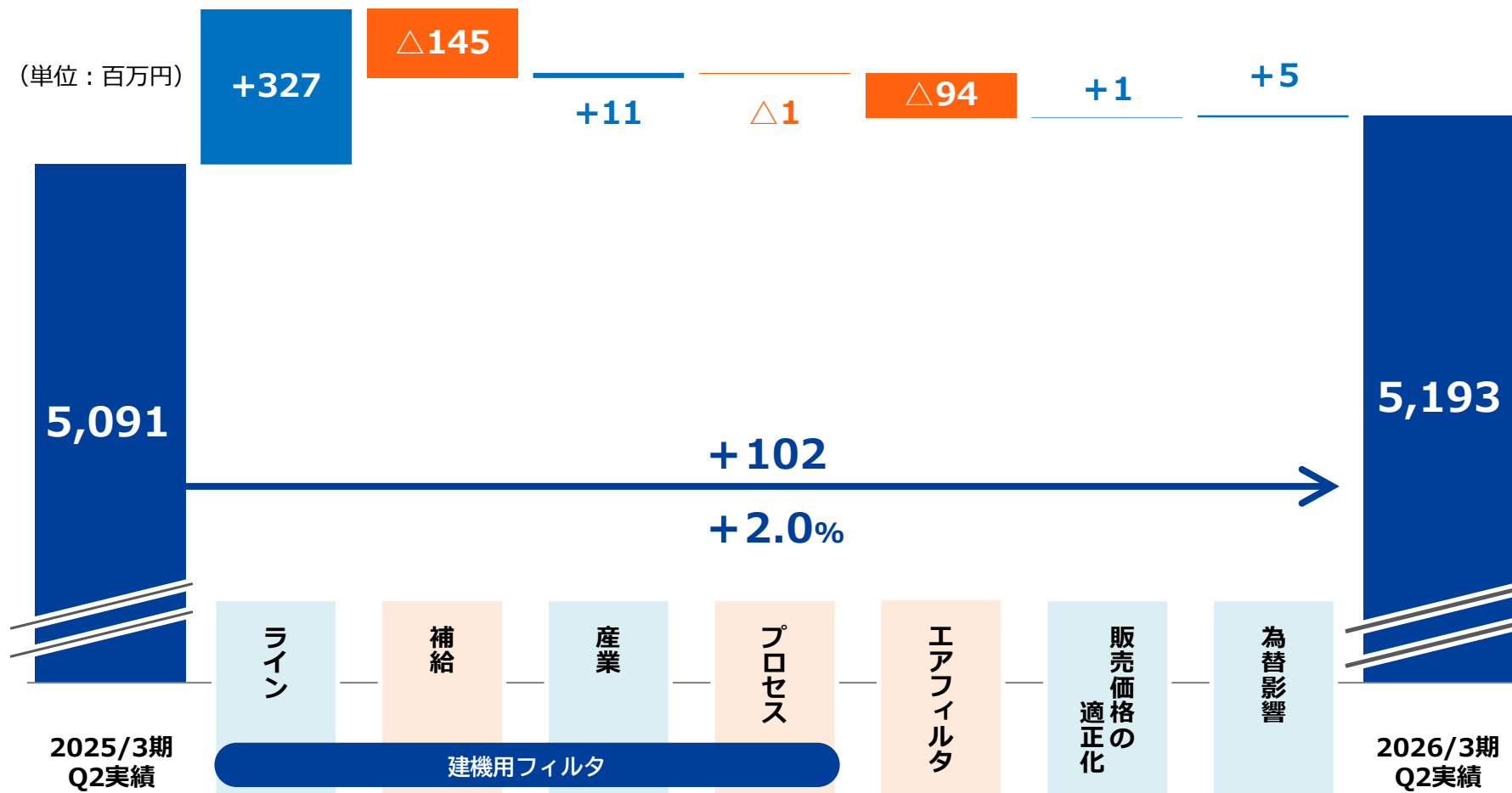
* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

* 従来「その他」に区分されていた南米に「北米」を加え「北米・南米」として集計しております。

2026年3月期第2四半期実績（2025/7-9）

売上高増減グラフ（前年同期比）

- ◆ 新車需要回復によるライン品売上高の増加により大幅な増収
- ◆ エアフィルタについては、基幹システム入れ替えに伴う出荷遅延の影響は縮小し、需要回復に向けた社内体制の整備は完了済み



2026年3月期第2四半期実績（2025/7-9）

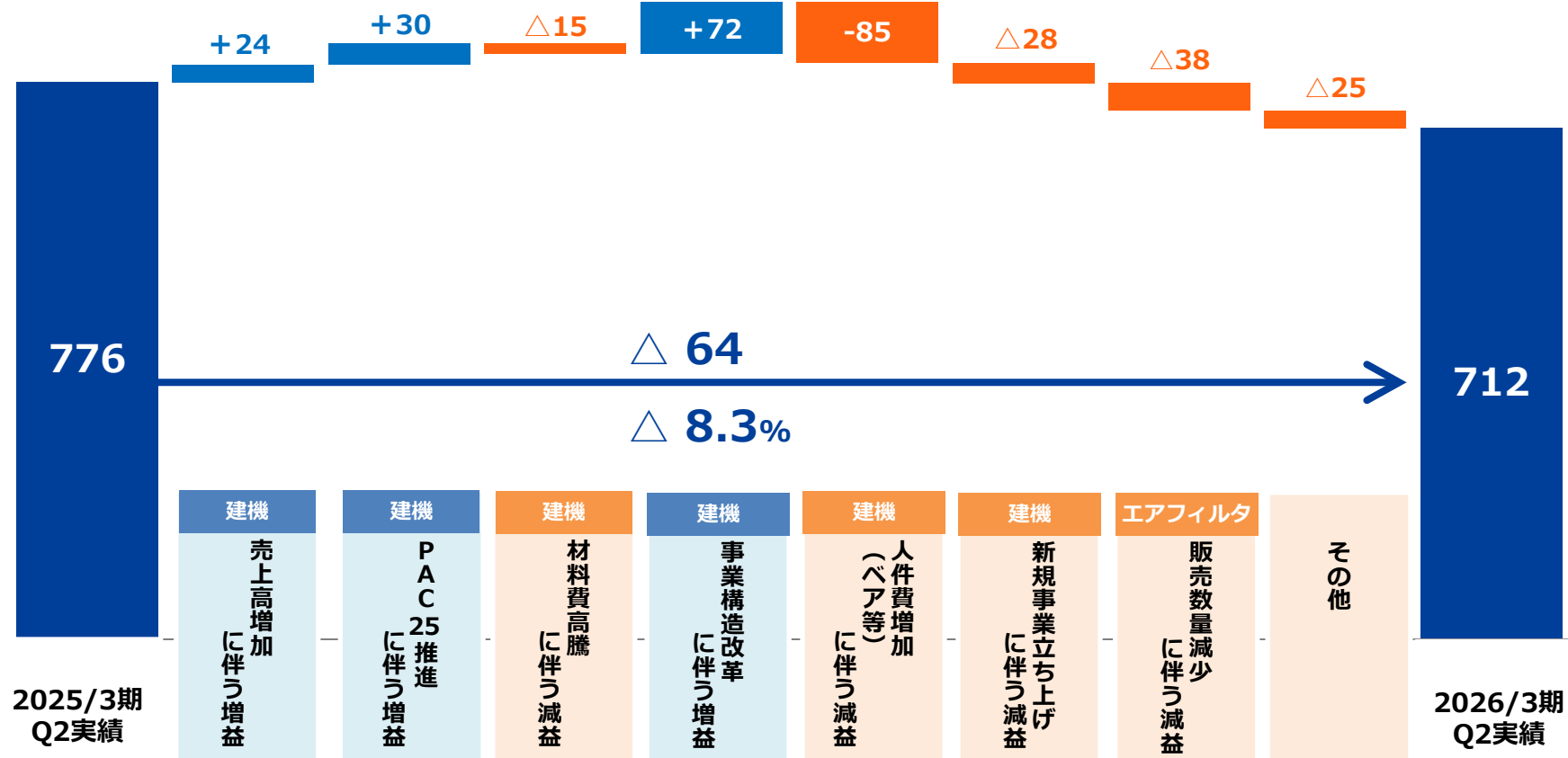
営業利益増減グラフ（前年同期比）

- ◆ 前年度好調であった補給品売上高の一時的な反動減およびエアフィルタ事業の業績低迷により若干の減益

（単位：百万円）

営業利益率
15.3%

営業利益率
13.7%



* 2026年3月期第2四半期より、海上運賃の増減については売上高の増加に伴う増益に含めて表示しております。

2026年3月期第2四半期累計業績 (2025年4月-9月)

2026年3月期第2四半期累計実績（2025/4-9）

PLセグメント別（連結、建機、エア）

- ◆ 第2四半期累計では創業以来過去最高の売上高、四半期純利益を更新
- ◆ 前年比ではエアフィルタ事業の低迷により営業利益は若干の減益

		2025/3期 Q2累計 実績	2026/3期 Q2累計 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
売上高		9,908	10,289	380	3.8%
	建機用フィルタ※	8,668	9,203	534	6.2%
	エアフィルタ	1,240	1,086	△153	△12.4%
営業利益（セグメント利益）		1,376	1,371	△4	△0.3%
	建機用フィルタ※	1,355	1,473	117	8.6%
	エアフィルタ	20	△101	△121	△594.3%
営業利益率		13.9%	13.3%	△0.6Pt	
経常利益		1,435	1,350	△85	△5.9%
経常利益率		14.5%	13.1%	△1.4Pt	
四半期純利益		870	909	39	4.5%
四半期純利益率		8.8%	8.8%	0.1Pt	
為替レート（円） （期中平均値）	USD	152.6	146.0	△6.6	△4.3%
	EUR	165.9	168.1	2.1	1.3%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

2026年3月期第2四半期累計実績（2025/4-9） 売上高（製品別）

◆ 新車需要の回復によりライン品の売上高が大きく伸長、補給品需要は堅調に推移

■ 製品別売上高

		2025/3期 Q2累計 実績	2026/3期 Q2累計 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ		7,950	8,462	511	6.4%
	ライン品	2,744	3,316	572	20.9%
	補給品	5,206	5,145	△60	△1.2%
産業用フィルタ		354	387	33	9.5%
プロセス用フィルタ		363	352	△10	△2.9%
建機用フィルタ 合計		8,668	9,203	534	6.2%
エアフィルタ		1,240	1,086	△153	△12.4%
売上高合計		9,908	10,289	380	3.8%

2026年3月期第2四半期累計実績（2025/4-9） 売上高（地域別）

◆ 新車需要の回復及び堅調な交換需要により中国市場及びアジア市場が増収

■ 地域別売上高

		2025/3期 Q2累計 実績		2026/3期 Q2累計 実績		前年同期比	
		金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※		8,668	87.5%	9,203	89.4%	534	6.2%
	国内	3,557	35.9%	3,508	34.1%	△49	△1.4%
	北米・南米	2,159	21.8%	2,269	22.1%	110	5.1%
	中国	572	5.8%	846	8.2%	274	48.0%
	アジア	1,303	13.2%	1,592	15.5%	288	22.2%
	欧州	1,075	10.9%	929	9.0%	△146	△13.6%
	その他（中東他）	—	—	57	0.6%	57	—
エアフィルタ（国内）		1,240	12.5%	1,086	10.6%	△153	△12.4%
売上高合計		9,908	100.0%	10,289	100.0%	380	3.8%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

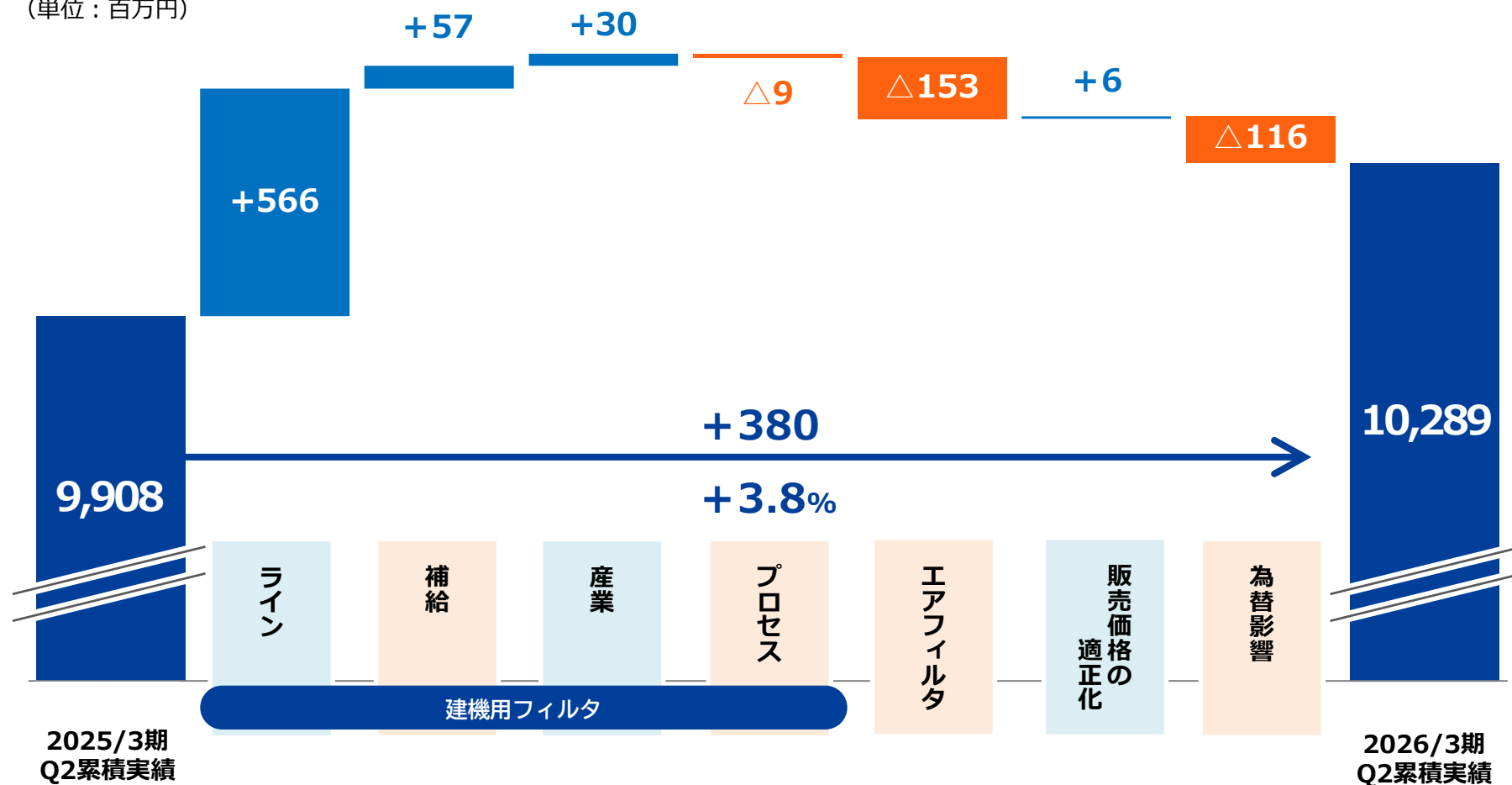
* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

* 従来「その他」に区分されていた南米に「北米」を加え「北米・南米」として集計しております。

売上高増減グラフ（前年同期比）

- ◆ 新車需要の回復により大幅な増収、エアフィルタの需要回復に向けた社内体制の整備は完了済み

（単位：百万円）

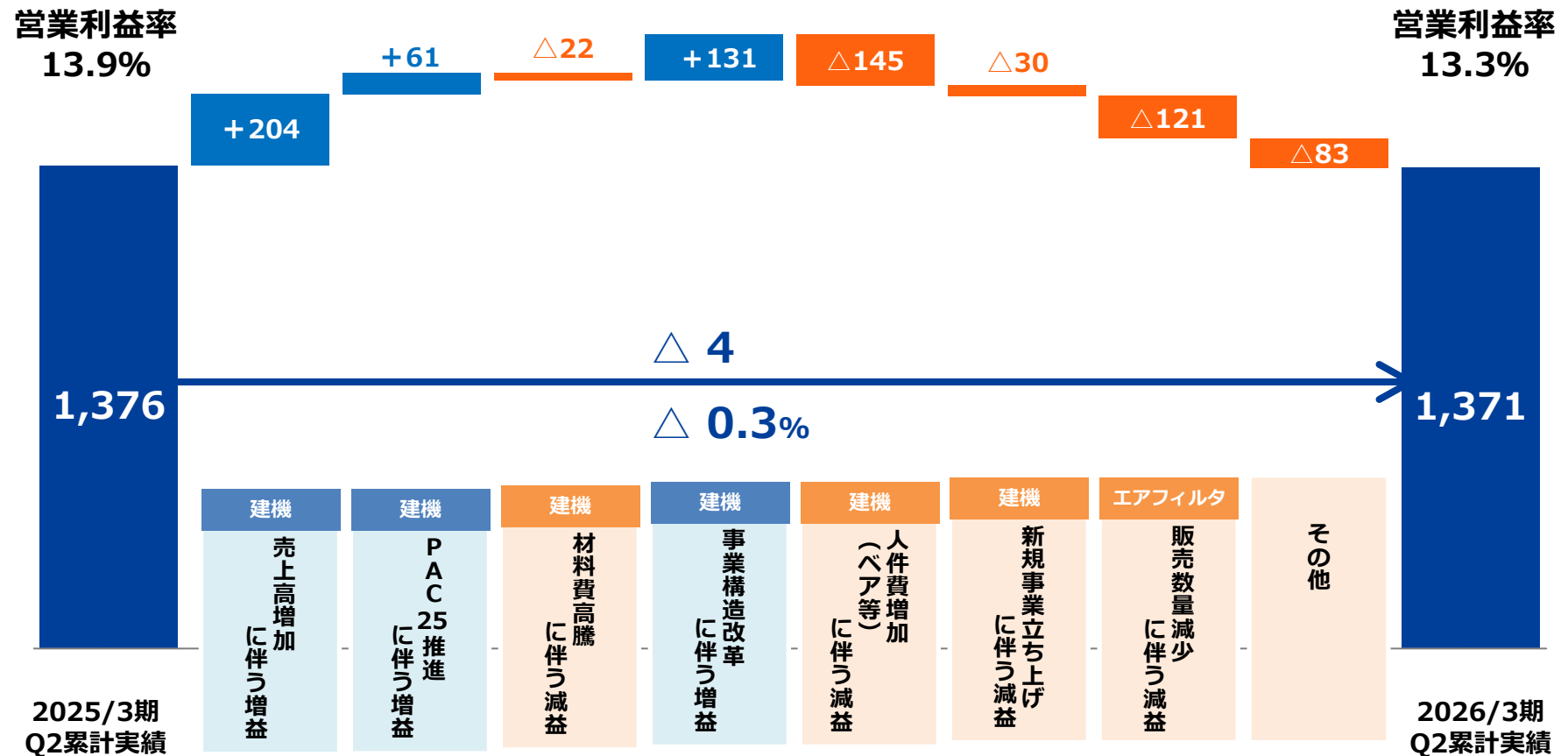


2026年3月期第2四半期累計実績（2025/4-9）

営業利益増減グラフ（前年同期比）

- ◆ 建機用フィルタ事業においては、新車需要、補給品需要とも堅調に推移し業績に貢献
- ◆ エアフィルタについては、基幹システム入れ替えに伴う出荷遅延の影響は縮小し、需要回復に向けた社内体制の整備は完了済み

（単位：百万円）



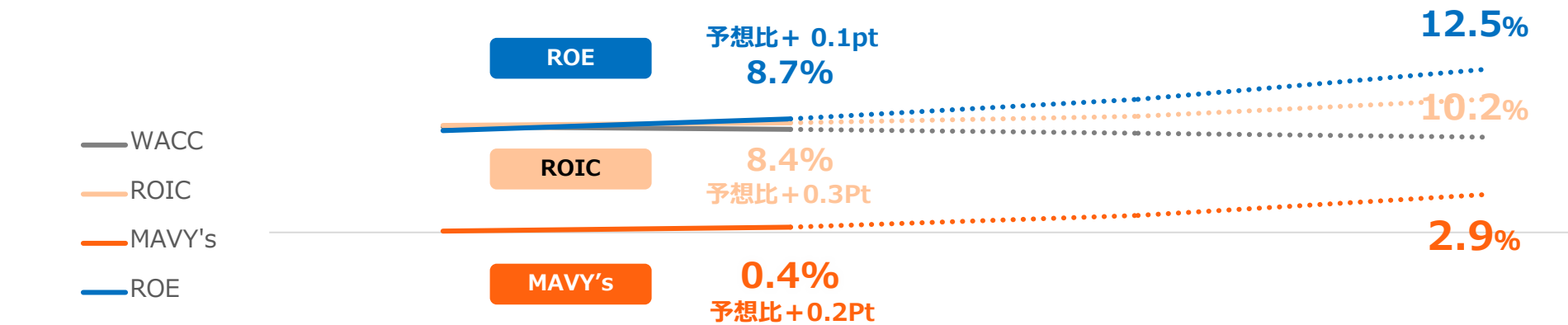
* 2026年3月期第2四半期より、海上運賃の増減については売上高の増加に伴う増益に含めて表示しております。

| 2026年3月期通期業績見通し

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3）
KPI進捗（MAVY's、ROIC、WACC、ROE）



- ◆ 企業価値を示すMAVY'をはじめとする経営指標の改善は着実に進展
- ◆ 2026年3月期は中期経営計画で掲げた目標値を上回り、創業以来過去最高の連結業績を更新見通し



	2025/3月期	2026/3月期			2027/3月期	2028/3月期
	実績	中計計画値	修正予算	計画比	中計計画値	中計計画値
MAVY's	0.1%	0.2%	0.4%	+ 0.2Pt	1.3%	2.9%
ROIC	8.2%	8.1%	8.4%	+ 0.3Pt	8.9%	10.2%
WACC	8.1%	7.9%	7.9%	-	7.6%	7.3%
ROE	7.8%	8.6%	8.7%	+ 0.1Pt	10.2%	12.5%

- ◆ 中期経営計画の順調な進展により建機用フィルタ事業の通期業績見通しを上方修正
- ◆ 新規事業立ち上げに伴う先行投資・コスト増を見込むが、創業以来過去最高の連結業績を更新見通し

		2025/3期 実績	2026/3期 期初予算	2026/3期 修正予算	期初予算比
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）
売上高		20,104	20,420	20,840	420
	建機用フィルタ※	17,489	17,770	18,520	750
	エアフィルタ	2,615	2,650	2,320	△330
営業利益（セグメント利益）		2,630	2,720	2,870	150
	建機用フィルタ※	2,554	2,645	2,930	285
	エアフィルタ	75	75	△60	△135
営業利益率		13.1%	13.3%	13.8%	0.5Pt
経常利益		2,669	2,750	2,870	120
経常利益率		13.3%	13.5%	13.8%	0.3Pt
当期純利益		1,723	1,910	1,970	60
当期純利益率		8.6%	9.4%	9.5%	0.1Pt
為替レート（円） （期中平均値）	USD	152.6	145.0	145.0	—
	EUR	163.8	165.0	165.0	—

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

- ◆ 新車需要の回復、高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品、補給品ともに増収見通し

■ 製品別売上高

		2025/3期 実績		2026/3期 期初予算		2026/3期 修正予算		期初予算比	
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ		16,080	80.0%	16,386	80.2%	17,112	82.1%	725	4.4%
	ライン品	5,599	27.9%	5,981	29.3%	6,503	31.2%	522	8.7%
	補給品	10,481	52.1%	10,405	51.0%	10,608	50.9%	203	2.0%
産業用フィルタ		708	3.5%	672	3.3%	720	3.5%	48	7.2%
プロセス用フィルタ		699	3.5%	711	3.5%	687	3.3%	△23	△3.4%
建機用フィルタ 合計		17,489	87.0%	17,770	87.0%	18,520	88.9%	750	4.2%
エアフィルタ		2,615	13.0%	2,650	13.0%	2,320	11.1%	△330	△12.5%
売上高合計		20,104	100.0%	20,420	100.0%	20,840	100.0%	420	2.1%

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3） 売上高（地域別：期初予算比）

◆ 北米中心に新車需要は増加傾向、補給品市場は引き続き堅調に推移する見通し

■ 地域別売上高

		2025/3期 実績		2026/3期 期初予算		2026/3期 修正予算		期初予算比	
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ※		17,489	87.0%	17,770	87.0%	18,520	88.9%	750	4.2%
	国内	6,900	34.3%	6,816	33.4%	7,138	34.3%	322	4.7%
	北米・南米	4,597	22.9%	4,918	24.1%	4,882	23.4%	△36	△0.7%
	中国	1,246	6.2%	1,354	6.6%	1,551	7.4%	197	14.6%
	アジア	2,670	13.3%	2,698	13.2%	2,922	14.0%	224	8.3%
	欧州	2,073	10.3%	1,891	9.3%	1,912	9.2%	20	1.1%
	その他（中東他）	—	—	90	0.4%	112	0.5%	21	24.2%
エアフィルタ（国内）		2,615	13.0%	2,650	13.0%	2,320	11.1%	△330	△12.5%
売上高合計		20,104	100.0%	20,420	100.0%	20,840	100.0%	420	2.1%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

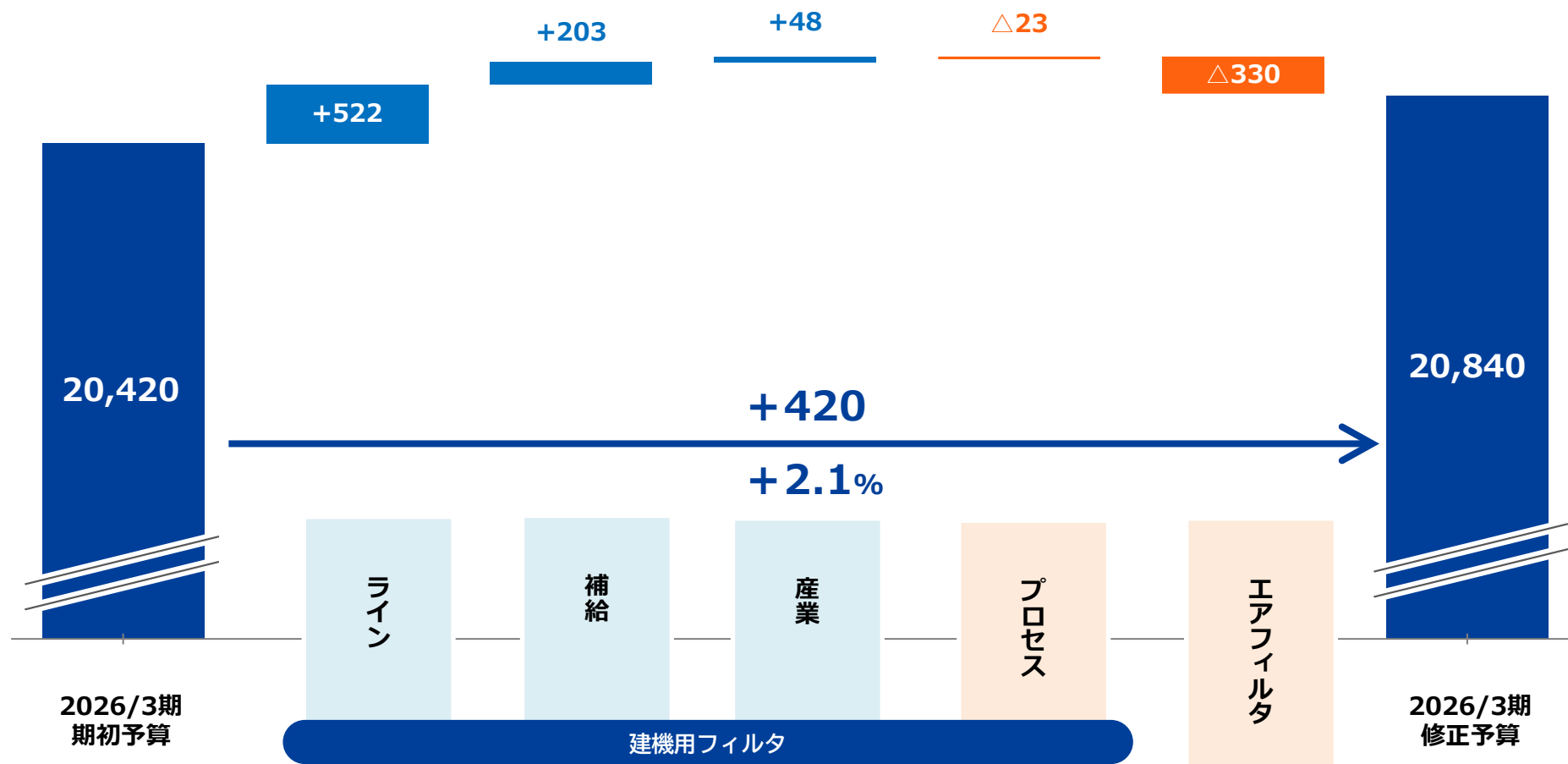
* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

* 従来「その他」に区分されていた南米に「北米」を加え「北米・南米」として集計しております。

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3） 売上高増減グラフ（期初予算比）

- ◆ 新車需要回復や高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品は大幅増収、補給品売上も堅調に推移する見通し

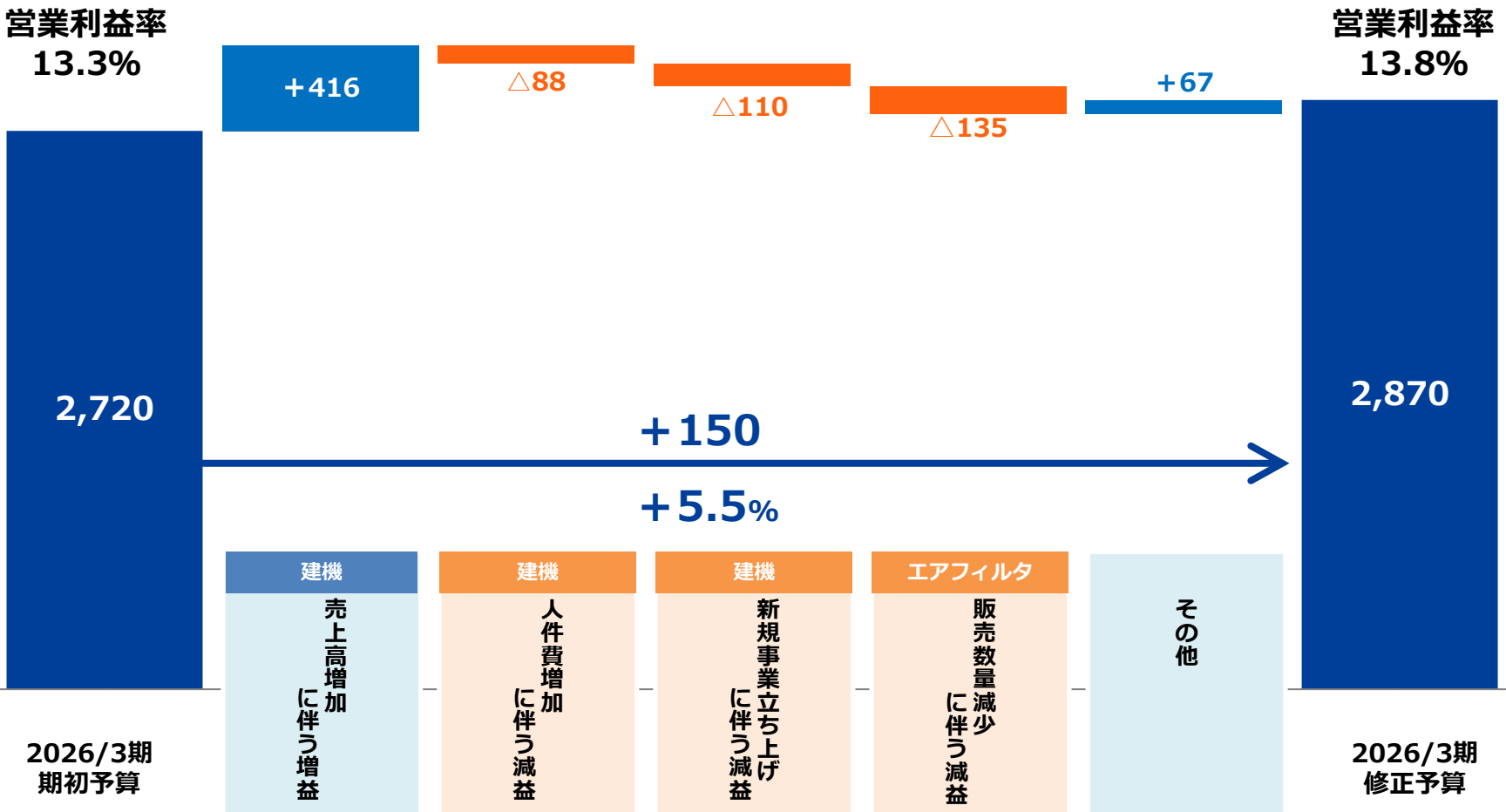
（百万円）



2026年3月期見通し（2025/4-2026/3）
営業利益増減グラフ（期初予算比）

- ◆ エアフィルタ事業の低迷、新規事業立ち上げに伴う先行投資・コスト増を見込むが、創業以来過去最高の連結業績を更新見通し

（百万円）



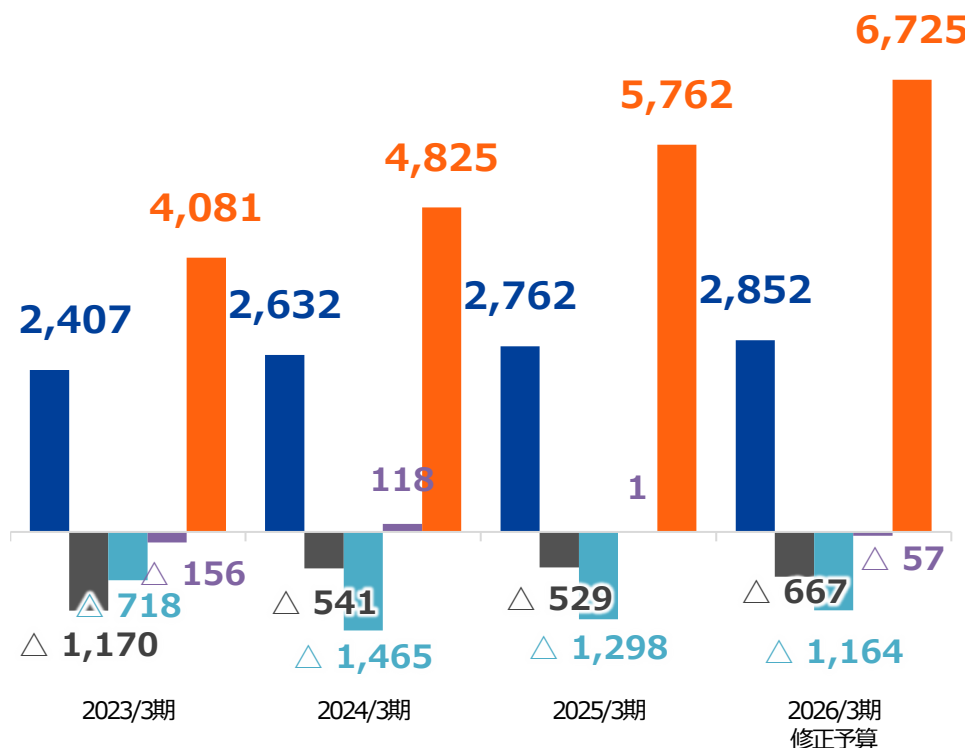
* 2026年3月期第2四半期より、海上運賃の増減については売上高の増加に伴う増益に含めて表示しております。

- ◆ 連結業績改善により潤沢なキャッシュフローを維持
- ◆ サプライチェーンの最適化、在庫水準管理の徹底により資金効率は大幅に改善

■ キャッシュ・フロー

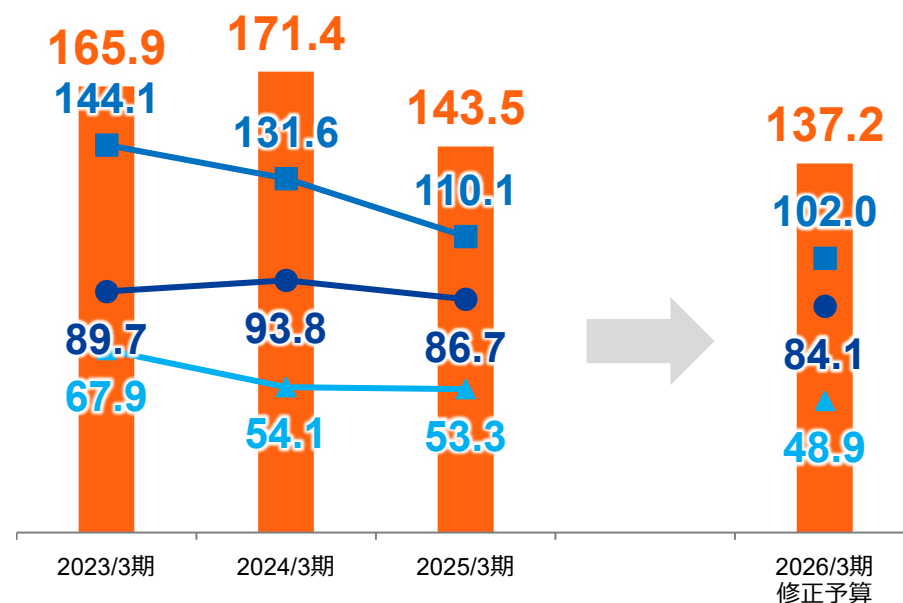
(単位：百万円)

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF ■ 換算差額 ■ 現金期末残高



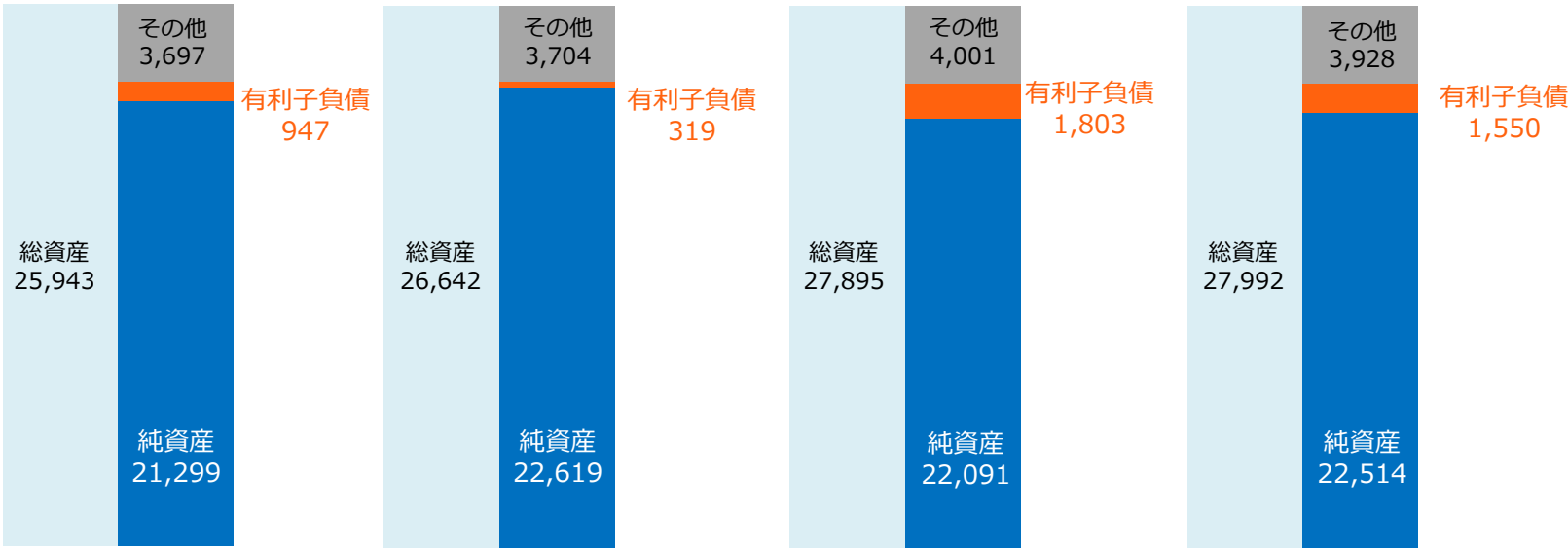
■ キャッシュ・コンバージョン・サイクル

■ CCC
● 売上債権回転日数
■ 棚卸資産回転日数
▲ 仕入債務回転日数



◆ 資本政策の見直し、財務レバレッジ効果により自己資本比率低減とWACCの低減を図る

(単位：百万円)



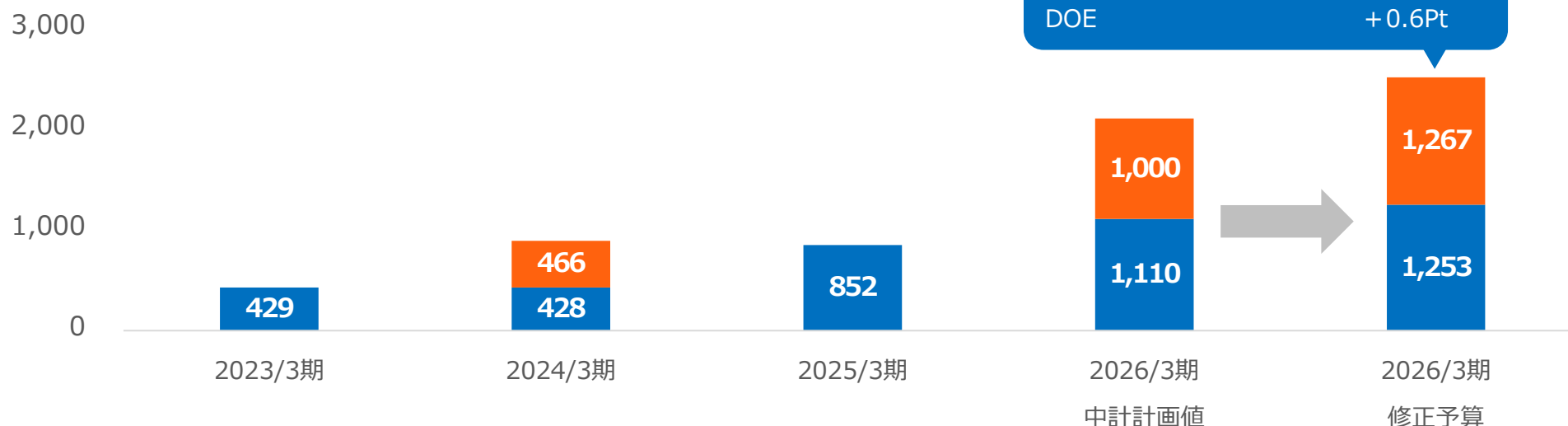
	2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 中計	2026/3期 修正予算
自己資本比率	82.1%	84.9%	79.2%	80.4%
財務レバレッジ	1.22	1.18	1.26	1.24
WACC	7.5%	8.1%	7.9%	7.9%

株主還元（配当金、DOE、配当性向、総還元性向）

- ◆ 配当予想を上方修正
- ◆ 配当と自己株式の取得含めた資本政策の見直しにより高い株主還元を実現

(単位：百万円)

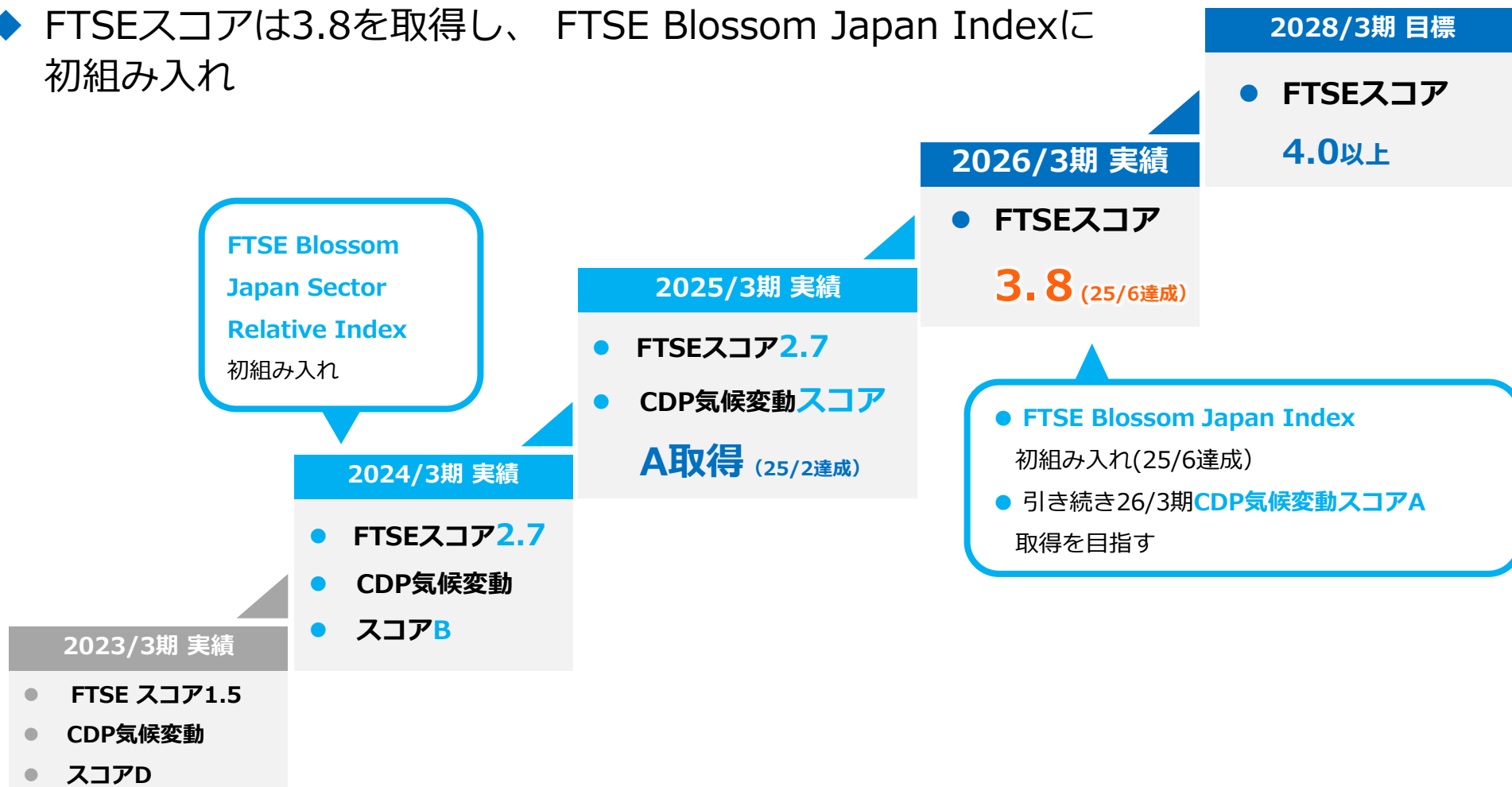
■ 配当金額 ■ 自己株式取得



	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期		
	実績	実績	実績	中計計画値	修正予算	計画比
1株当り 年間配当金	6.0円	6.0円	12.0円	16.0円	18.0円	+2.0円
総還元性向※	75.6%	121.0%	52.9%	113.5%	130.9%	+17.4Pt
DOE	2.1%	2.0%	3.9%	5.0%	5.6%	+0.6Pt

※ 総還元性向 = {(配当金総額 + 株主優待 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益} × 100

- ◆ 非財務情報KPIのCDPスコアはCDP気候変動2024において「Aリスト企業」に初認定され、2028年3月期の中計目標を前倒しで達成済み
- ◆ FTSEスコアは3.8を取得し、FTSE Blossom Japan Indexに初組み入れ



市場環境及び中期経営計画の進捗状況

建機用フィルタ市場を取り巻く外部環境

- 地域ごとに濃淡あるも需要は堅調

- ◆ 新車需要はアジア一部地域で軟調も、北米市場は堅調を維持
- ◆ 地域差はあるが機械稼働の停滞は見られず、部品需要は安定推移する見通し
- ◆ 米国関税影響に対する当社影響は軽微

2025年3月期

2026年3月期 2Q実績

2026年3月期見通し

日本

原材料価格は高止まり
レンタル向け減少により前年比減

新車需要は想定より早く回復基調

先行き不透明感から需要は横ばい

北米

主要原材料価格は高止まり、円安継続
住宅着工件数減少により前年比減
アフターマーケットは好調

関税・為替の動向は不透明
新車需要は回復基調に転じ前年比増加

新車需要は並みを想定
アフターマーケットは堅調維持

欧州

主要国の需要減により前年比減少

主要国の需要減により
アフターマーケットは
前年比減少

新車需要は前年並みか微減を想定

アジア

インドネシア中心に建機、鉱山機械の
需要回復により前年比増
アフターマーケットは好調

インドを中心に建機・鉱山機械の
需要が堅調に推移し前年比増加
アフターマーケットは好調

資源価格の不透明さはあるが
新車需要、アフターマーケット
ともに堅調維持

中国

需要低迷が継続

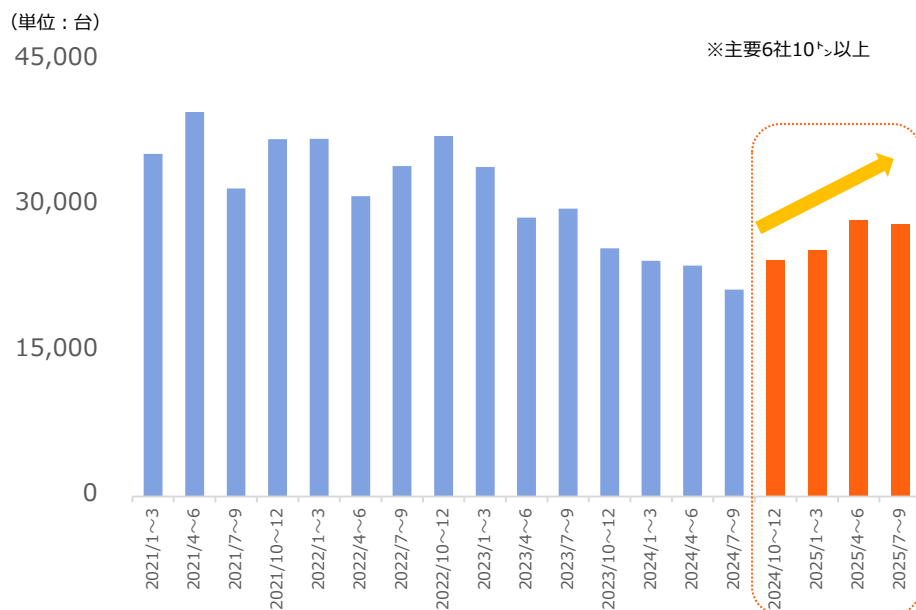
不動産市況は低迷するも
鉱山機械の新車需要の増加により
前年比増加

不動産市況は低迷が継続する見通し
鉱山機械の新車需要は堅調維持

- ◆ 生産台数は2024年をボトムに、回復局面が今期も継続
- ◆ 新車需要は地域で濃淡はあるが、期初の想定以上に堅調推移
- ◆ 安定して高稼働が続いており、メンテナンス需要も底堅く推移する見通し

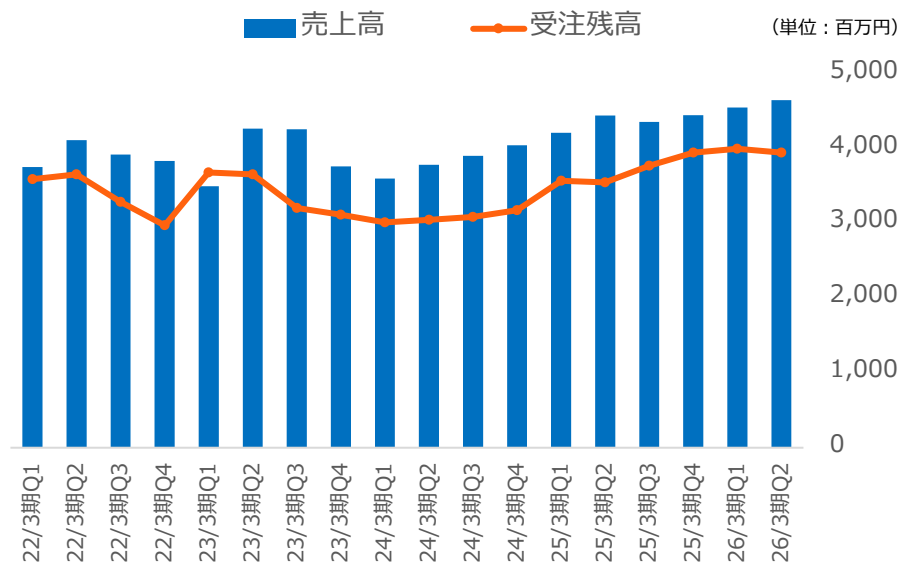
主要建機メーカー合計生産実績 (四半期推移)

新車生産は回復基調へ維持

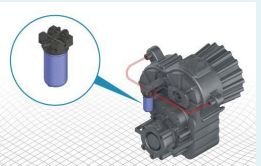
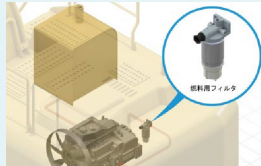
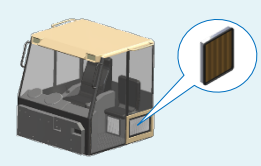
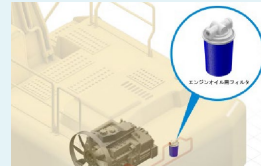
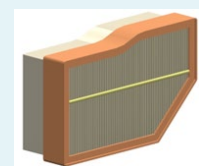


建機用フィルタ売上高と確定受注残高 (四半期推移)

ライン需要が牽引役となって 受注残高は堅調を維持



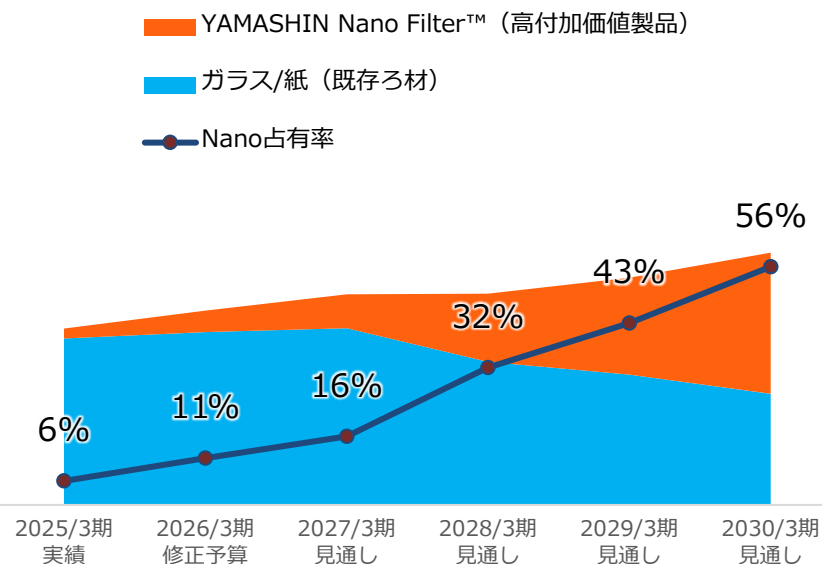
- ◆ 油圧用フィルタなど得意な製品群を中心にモデルチェンジを確実に獲得
- ◆ 主力製品 & 新規製品のシェア獲得戦略は順調に進捗

製品 顧客	※油圧用フィルタ	トランスミッション用 フィルタ	燃料用フィルタ	キャビン用 フィルタ	エンジンオイル用 フィルタ	エンジン用 エアフィルタ
						
A社	◎	△ 採用獲得	◎	◎	△	△
B社	○	◎	△	△	△	△
C社	○	△	△	△	△	△
D社	◎	-	△	△	△	△
E社	◎	△	△	△	△	△

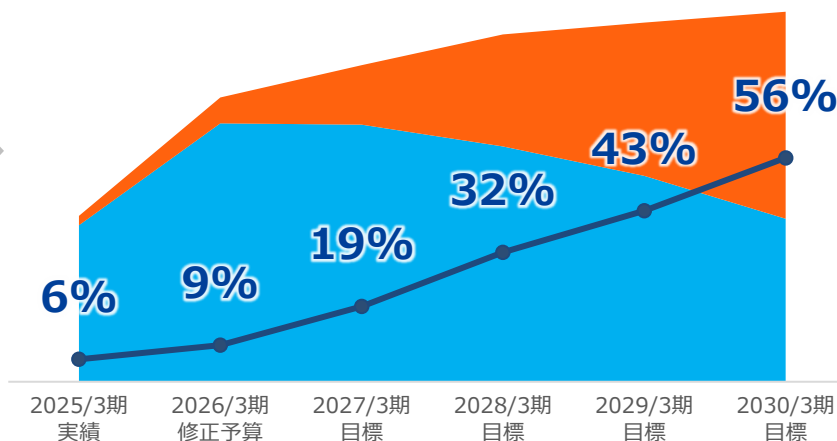
◎：シェア80.0%以上、○：シェア50.0%以上80%未満、△：シェア50%未満
※油圧用フィルタは、油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザー、ダンプトラック、モーターグレーダー、クローラクレーン等の機種に搭載
※2024年11月に発表した中期経営計画から、集計対象機種を見直したため、表内のシェア表示が変更になっております。

- ◆ ナノファイバー製品への置き換えは中期経営計画の予定通りに進展
- ◆ 2026/3期はフィルタ全体の販売量が増加した影響で占有率は一時的に減少見通し

ナノファイバー製品の占有率（中期経営計画）



ナノファイバー製品の占有率（今後の見通し）



※リターンフィルタおよびエレメントを対象

- ◆ 当社提唱のロングライフ化が大きな潮流になり、切り替えが進展
- ◆ 中期経営計画の目標値を数量面で大幅に上回る見通し

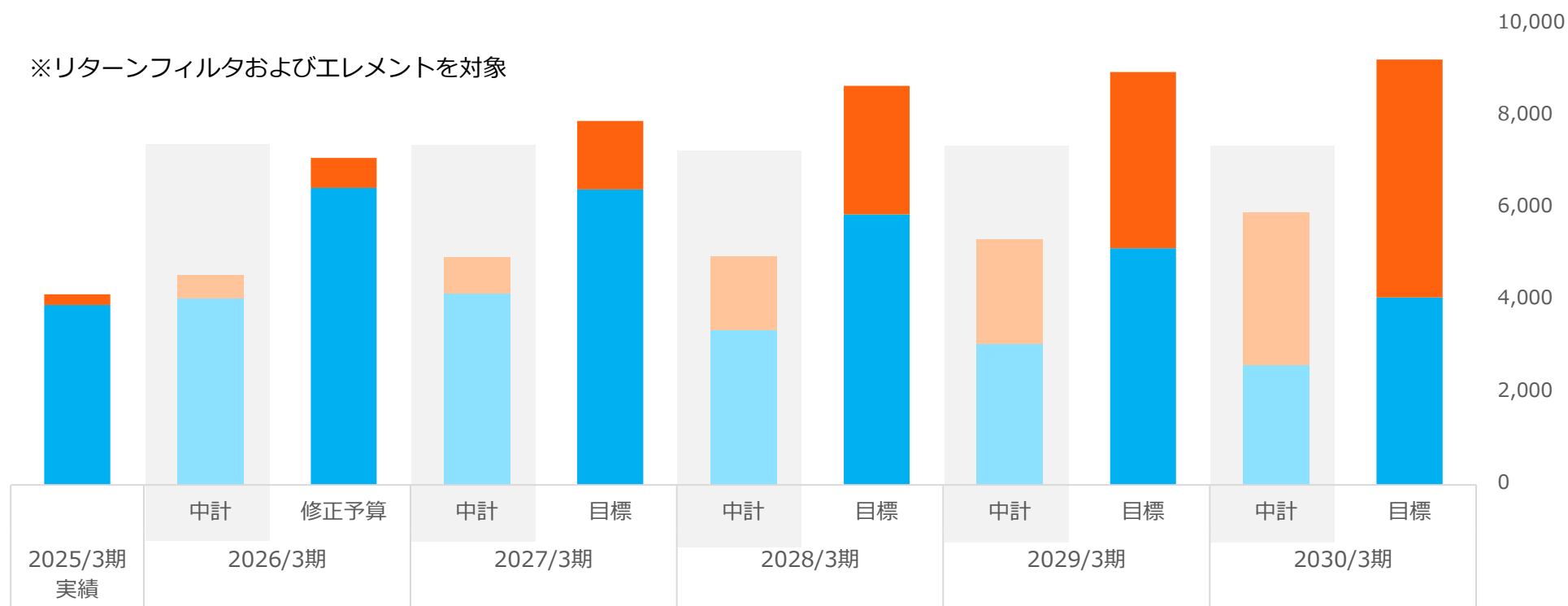
ナノファイバー製品の売上高見通し

■ ガラス/紙（既存ろ材）

■ YAMASHIN Nano Filter™（高付加価値製品）

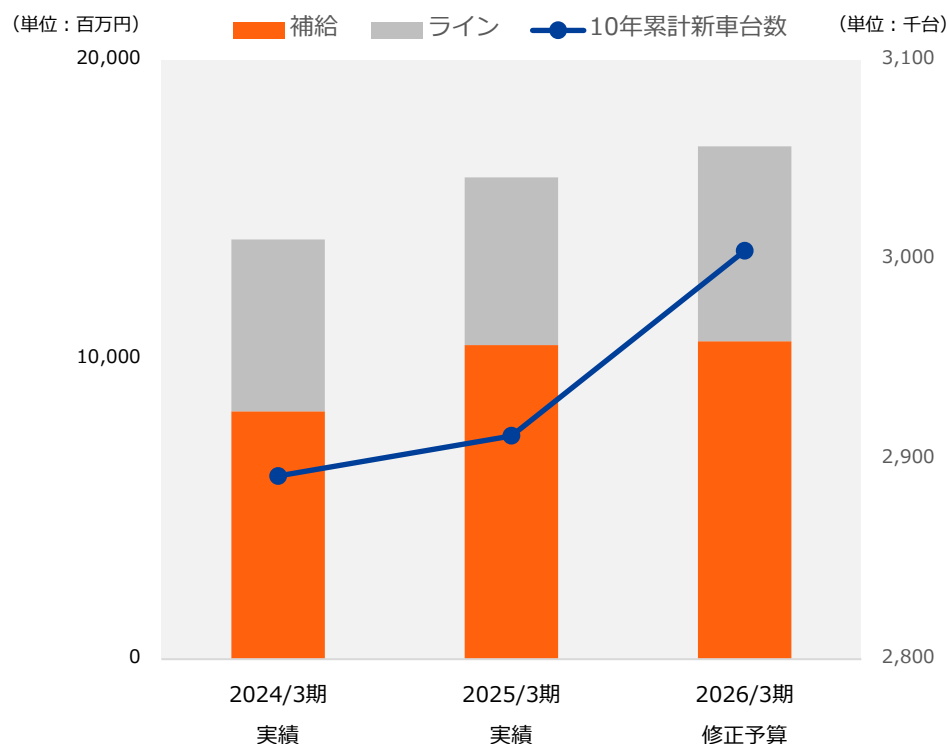
（単位：百万円）

※リターンフィルタおよびエレメントを対象



- ◆ 建機の市場台数伸長により、当社の補給品市場は今後も拡大する見通し
- ◆ 建機バリューチェーン全段階へのタッチポイントを作ることで、売上最大化を目指す

補給売上高の実績推移



当社の進める活動概要



- ◆ ユーザーに対しての啓発活動は、上期で動員人数1000人を突破
- ◆ 代理店スタッフ向けも販売員だけでなく、メカニックなど幅広い職種が参加

ユーザー向けセミナー活動

上期実績：16回

動員人数：1,300名

インド・インドネシア・マレーシア・タイの4か国

啓発活動を通して、「フィルタのことを初めて勉強した！」や、「純正品を“使用しなくてはならない理由”を初めて知った！」など純正品の重要性に対するコメントを多く寄せられ、いずれの開催も好評。代理店の保守契約獲得にも貢献。



スタッフ向けトレーニング講習

上期実績：11回

動員人数：203名

インドネシア・タイの2か国

本講習では座学のみでなく、デモンストレーションの実践方法も提供しており、実際に皆さまの目で純正品と非純正品の違いを実感してもらう機会を作ることが趣旨。現地参加者からは「純正品を自信をもって販売できる」といった前向きなコメント多数。

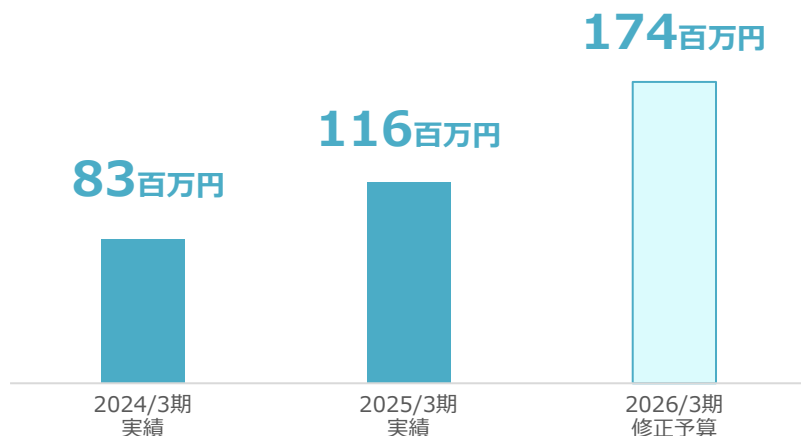


- ◆ ビル建物の獲得競争は変わらず厳しいが、需要の母集団は堅調を維持
- ◆ 基幹システム入れ替えに伴う出荷遅延の影響は沈静化（3Q受注は回復）

	市場概要	市場環境	
		前期	今期見通し
ビル・建物	オフィス・商業ビル等に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	フィルタのスポット案件増加傾向が顕著になり獲得競争は激化予想。	フィルタ需要は堅調を維持しているが、価格競争も依然として継続。
一般工場	工場に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	定期保守は維持されているが、周期の再検討など保守計画見直しの動き。	米国関税の不透明感から、稼働率低下。保守計画にもマイナス影響。
半導体工場	ケミカルフィルタの交換市場	前年並みの推移は見られる。上振れするかはまだ見通しは不透明。	工場は増設傾向にあるため、需要は増加傾向にある。
環境機器	一般家庭で使われる住宅空調・空気清浄機のエアフィルタ	減少傾向。住宅メーカーによるコスト抑え込み要求は激化。	戸建住宅の減少傾向が継続。短期的には材料高騰がマイナス要因。
車両	鉄道等の空調用エアフィルタ 建機の粉塵用エアフィルタ	交換需要は堅調を維持。リニア部品は動き出しているが大きな量産にはまだ辿り着いていない。	交換需要は横ばいを維持。リニア備品は、開業が後倒しになった影響で、量産には至らず。

- ◆ OEM分野では、ユニット搭載される分野と生産工程で使用される分野をターゲット
- ◆ メーカー製品では性能や品質が重視されるため、当社の強みとマッチング

BtoB直販領域における実績と計画



- 採用実績のあるメーカーを中心に新規顧客開拓を展開。業界横断的な課題の解決を軸に、試作品供給というプロセスを確立。
- 試作品評価の段階に数社同時並行して進展しており、4Qから来期の量産開始を目標に進捗中。

有望分野に対するアプローチ

産業機器分野



空調機器メーカー

空調ユニットに搭載される標準フィルタに採用。工場や倉庫で設置される。

厨房機器メーカー

セントラルキッチンに使用されるような大型排気装置に搭載。

生産工程分野



製薬メーカー

製薬品質に関わる工程で空調コントロールするために採用。

製品メーカー

溶接ヒューム等の工程から排出される成分を除去するために製品を採用。

| YAMASHIN FILTER VISION 2030

「夢」への挑戦

YAMASHIN FILTER VISION 2030

ハイライト版

ヤマシンフィルタ株式会社
2025年12月4日

当社独自開発の機能性素材であるナノファイバーを活用した新規事業を確立し、さらなる企業価値の向上を実現

YAMASHIN FILTER VISION 2030

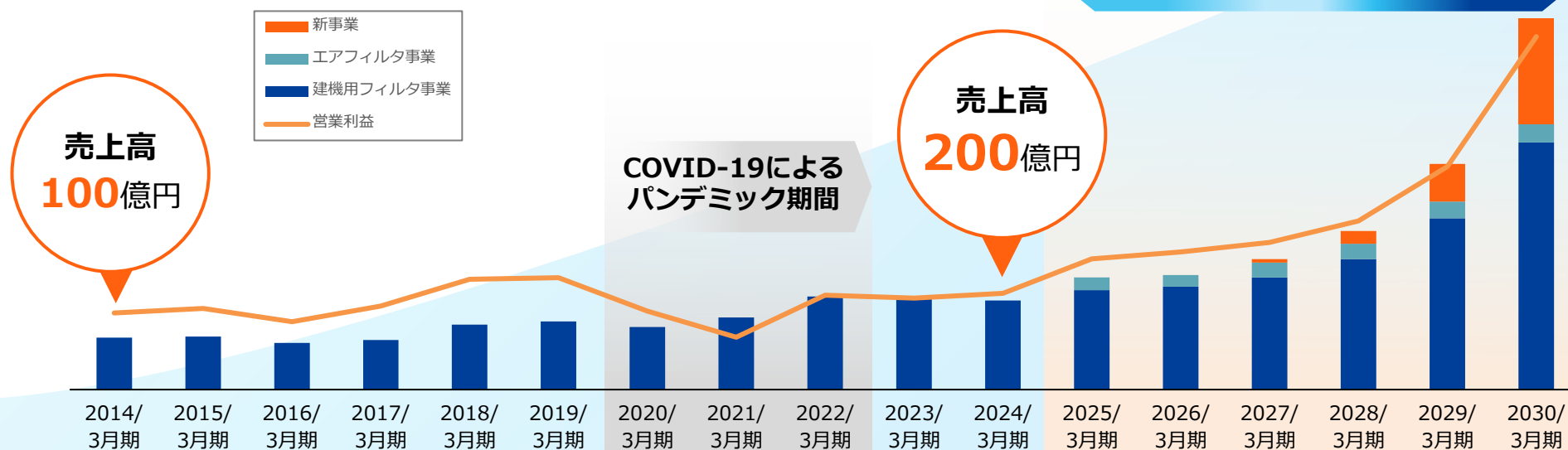
数値目標
2030年3月期

売上高	50,000百万円
営業利益	10,500百万円
EPS	107円
時価総額	3,000億円

2030年にありたい姿

- 既存事業の強みを活かし、総合フィルタメーカーから機能素材メーカーへの進化

売上高
500億円
(目標)



「高比表面積・高空隙率×材料自由度×多様な加工技術」 当社独自開発ナノファイバー「YAMASHIN Nano Filter™」は幅広い産業で 機能革新を生み出す「次世代素材」

高比表面積・
高空隙率

従来繊維素材と比較して
圧倒的な性能優位性

断熱・
吸音性

軽量化・
薄膜化

透湿性

材料自由度

様々な機能性素材や
高付加価値素材の実現

耐熱素材

電磁波シールド

PFASフリー

生体センサー
素材

多様な
加工技術

超撥水性素材

圧電素材

幅広い産業で
機能革新を生み出す
次世代素材



ヘルスケア



医療



自動車



通信



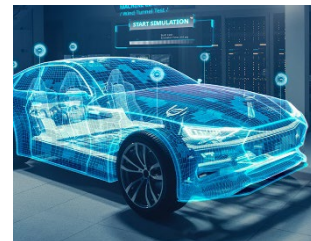
産業服



絶縁材



アパレル



当社ナノファイバー素材の競争優位性を最大限発揮できる市場領域を精査
機能テキスタイル・ライフサイエンス・産業資材の3つの市場領域を選定

市場規模大

機能テキスタイル



アパレル / 防火服

高成長市場

ライフサイエンス



生体センサ / メディカル

安定市場

産業資材



耐熱・断熱素材 / EMIシールド材

開発テーマ

機動性

保温性

調湿性

快適性

高センサー精度

吸音性

薄さ

ナノファイバー素材の活用により2030/3期までに
新規事業ポートフォリオを確立

YAMASHIN FILTER VISION 2030

新規事業 目標利益

2030年3月期

売上高

21,300百万円

営業利益

4,500百万円

EPS

46円

重点戦略と取り組み

新規事業の市場領域

① 機能
テキスタイル

市場 アパレル
防火服

製品 薄型高性能中綿

② ライフ
サイエンス

市場 生体センサー

製品 高精度の電極

③ 産業資材

市場 断熱絶縁
EMIシールド

製品 次世代防護材

上市イメージ

アパレル

第1弾
2025年
11月~

第2弾
28/3期
1Q~

防火服

薄型高性能中綿

29/3期
1Q~

生体センサー

27/3期
4Q~

EMIシールド

29/3期
1Q~

公表内容

YAMASHIN FILTER VISION 2030

新事業の展望を含む新たなエクイティストーリー

2025年12月4日

対面・WEBハイブリッド形式にて開催

参考資料

－2026年3月期 第2四半期決算にかかる補足情報

目指すべき定量目標（建機用フィルタ）

1

3軸によるシェア拡大
(顧客軸・技術軸・地域軸)

2

高付加価値製品

3

アフターマーケット市場の進化

Key Goal Indicator (KGI)

Key Performance Indicator (KPI)

Key Success Factor (KSF)

責任部署

※KPI算定の前提

Prv : 2025/3期 通期実績
Cur : 2026/3期 修正予算

売上高営業利益率
Prv: 14.6%
Cur: 15.8%

売上総利益率
Prv:46.3 %
Cur:47.3%

販管費率
Prv:31.7 %
Cur:31.5%

運転資本回転率
Prv:3.0
Cur:3.1

固定資産回転率
Prv:2.0
Cur:2.1

売上高伸長率
Prv:13.7%
Cur:5.9%

売上原価率
Prv:53.7%
Cur:52.7%

減価償却費率
Prv:3.6%
Cur:3.4%

研究開発費率
Prv:2.4%
Cur:2.8%

人件費率
Prv:15.5%
Cur:14.7%

売上債権回転率
Prv:4.4
Cur:4.4

棚卸資産回転率
Prv:5.4
Cur:6.2

仕入債務回転率
Prv:7.2
Cur:7.9

有形固定資産回転
Prv:2.3
Cur:2.4

無形固定資産回転率
Prv:81.9
Cur:92.2

ROIC
Prv:10.2%
Cur:10.3%

MAVY's
Prv:2.0%
Cur:2.4%

投下資本回転
Prv: 0.9
Cur: 0.9

WACC
Prv: 8.1%
Cur: 7.9%

新製品開発
純正率向上

購買力強化
歩留り改善

投資計画

テーマの絞り込み
優先順位

最適な人員構成

債権管理

適正在庫の設定

債務管理

設備計画
(R&D・生産)

投資計画

営業・開発

生産

経営企画
財務・管理

開発

人事・総務

営業
財務・経理

生産
営業

生産

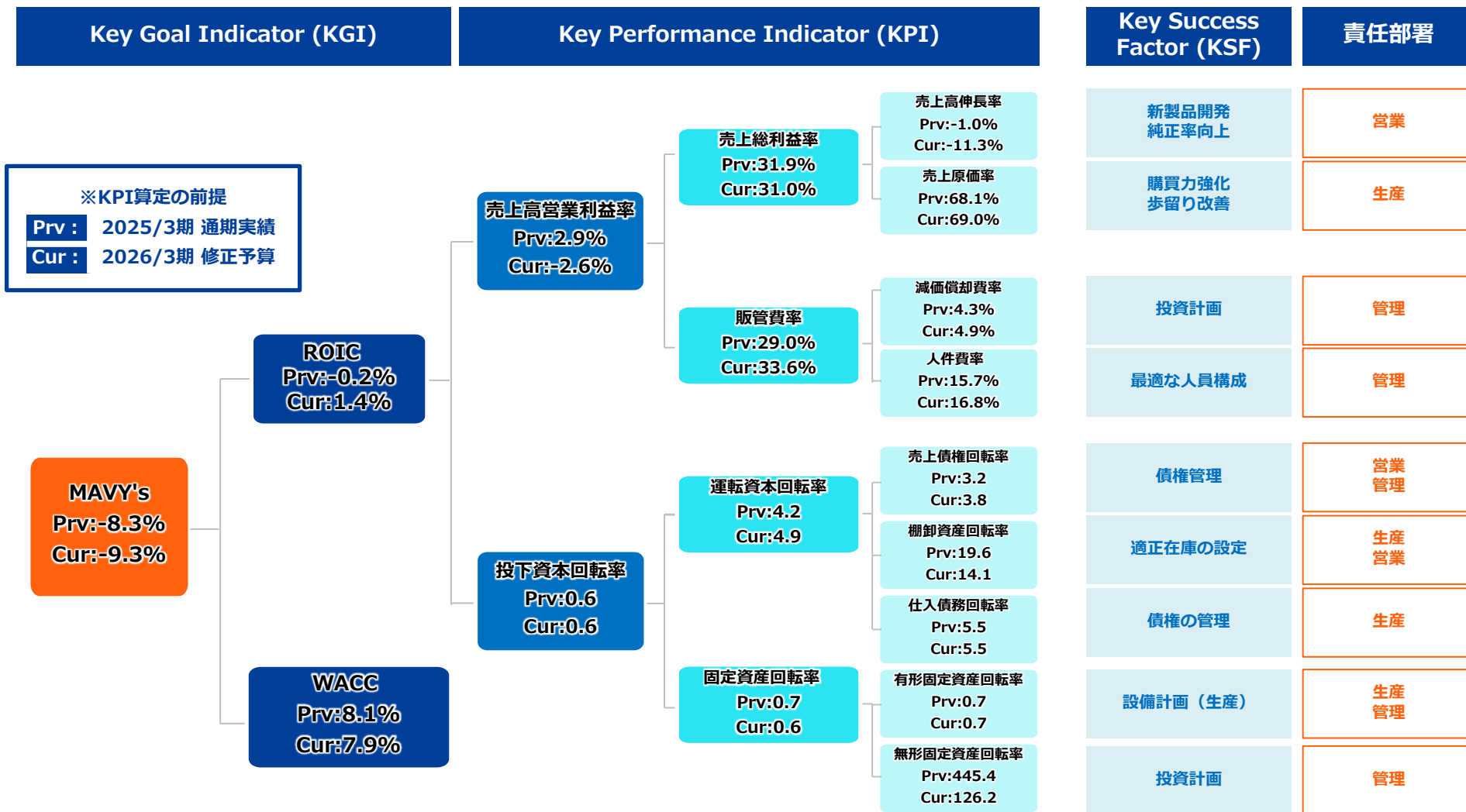
経営企画
総務・生産・開発

経営企画
財務・経理

目指すべき定量目標（エアフィルタ）

1 新商流の開拓（BtoB）

2 高付加価値製品（PFAS・PFOSフリー、CO2、消費電力削減）



※KPI算定の前提

Prv : 2025/3期 通期実績

Cur : 2026/3期 修正予算

- ◆ 企業価値を示すMAVY'sの改善は中期経営計画通り着実に進展
- ◆ エアフィルタビジネスの収益改善が経営課題

		2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 中計	2026/3期 修正予算
MAVY's		△2.6%	0.1%	0.2%	0.4%
ROIC		4.9%	8.2%	8.1%	8.4%
WACC		7.5%	8.1%	7.9%	7.9%
ROE		3.7%	7.8%	8.6%	8.7%
建機用フィルタ	MAVY's	△1.7%	2.0%	1.5%	2.4%
	ROIC	5.8%	10.2%	9.4%	10.3%
	WACC	7.5%	8.1%	7.9%	7.9%
エアフィルタ	MAVY's	△6.0%	△8.3%	△5.8%	△9.3%
	ROIC	1.5%	△0.2%	2.1%	△1.4%
	WACC	7.5%	8.1%	7.9%	7.9%

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3）

資本政策進捗（総資産、自己資本比率、財務レバレッジ、WACC）

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期 中計	2026/3期 修正予算
総資産 (百万円)	25,581	25,943	26,642	27,895	27,992
現預金	4,113	5,065	6,014	6,835	6,982
有利子負債	1,406	947	319	1,803	1,550
純資産	20,977	21,299	22,619	22,091	22,514
自己資本比率	82.0%	82.1%	84.9%	79.2%	80.4%
財務レバレッジ	1.22	1.22	1.18	1.26	1.24
WACC	7.5%	7.5%	8.1%	7.9%	7.9%

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3）

株主還元（配当金、DOE、配当性向、総還元性向）

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期 中計	2026/3期 修正予算
1株当り 年間配当金	6.0円	6.0円	12.0円	16.0円	18.0円
配当金額 (百万円)	429	428	852	1,110	1,253
自己株式取得 (百万円)	—	466	—	1,000	1,267
連結配当性向 ^{※1}	66.5%	54.5%	49.3%	58.1%	63.6%
配当利回り ^{※2}	1.8%	1.3%	2.1%	1.5%	1.6%
DOE ^{※3}	2.1%	2.0%	3.9%	5.0%	5.6%
総還元性向 ^{※4}	75.6%	121.0%	52.9%	113.5%	130.9%

※1 連結配当性向 = (配当金総額 ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益) × 100

※2 配当利回り = (1株あたり配当金 ÷ 期末日現在の株価) × 100

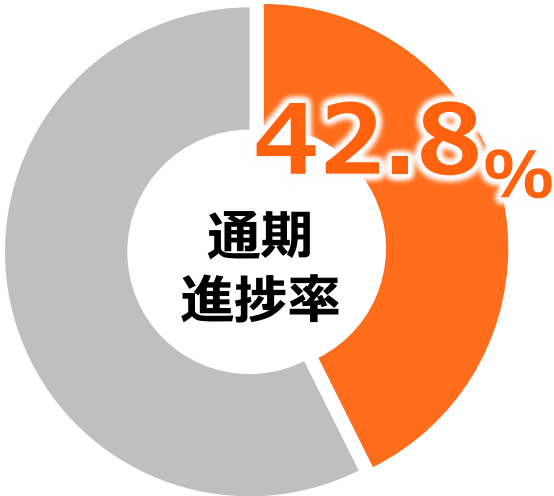
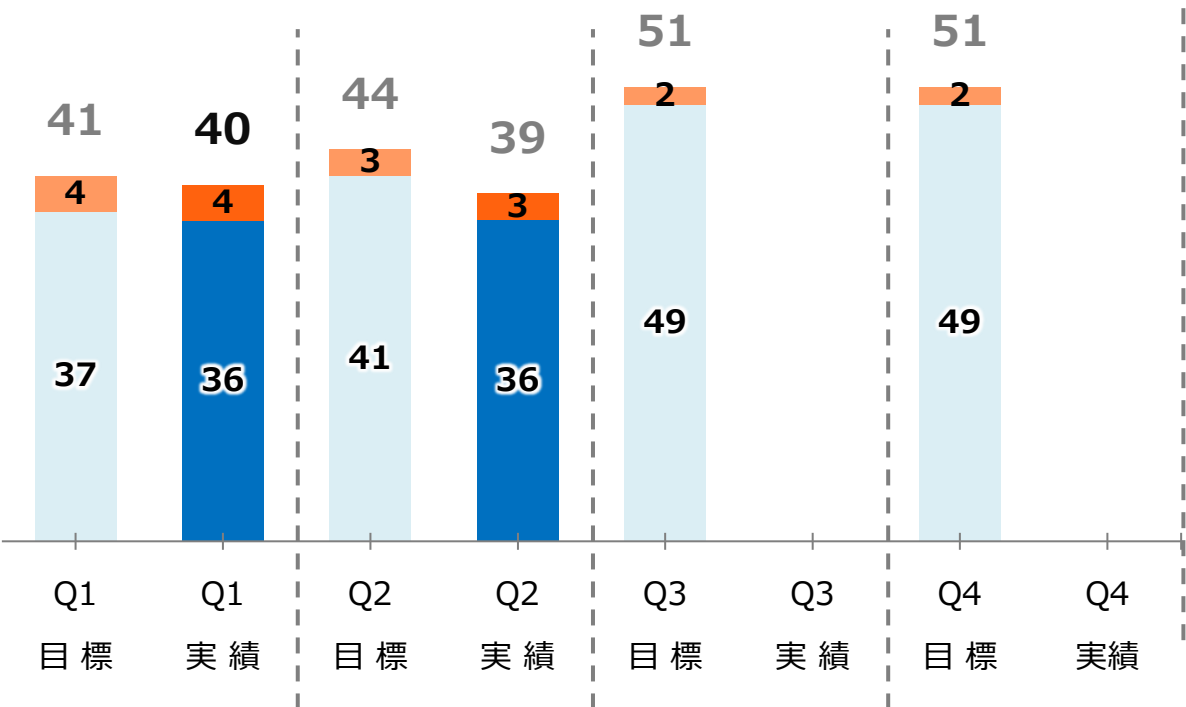
※3 DOE（株主資本配当率） = (年間配当総額 ÷ 株主資本) × 100

※4 総還元性向 = {(配当金総額 + 株主優待 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益} × 100

◆ PAC25の取組みは着実に進展

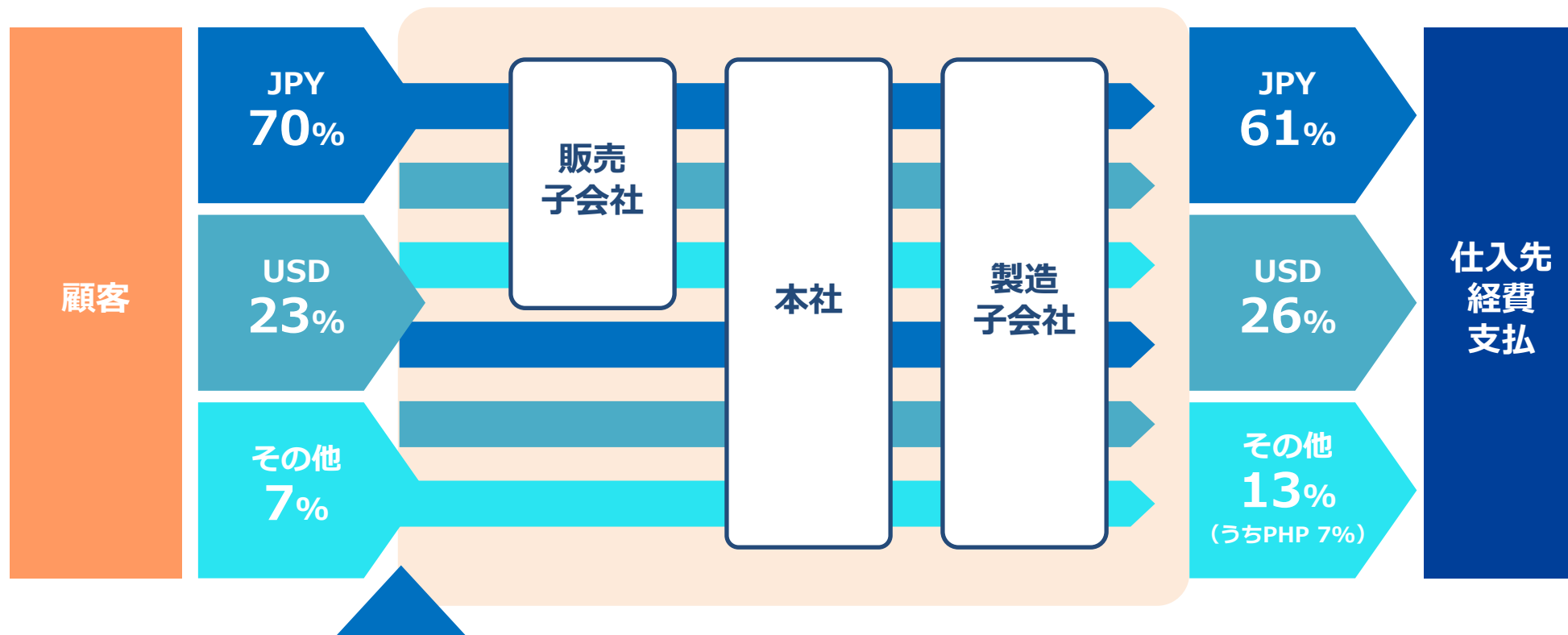
■ 進捗状況（前期比）
（単位：百万円）

■ 製造原価 ■ 販管費



単位 百万円		通 期 目 標	通 期 実 績
PAC25	製造原価	177	73
	販管費	13	8
合 計		190	81

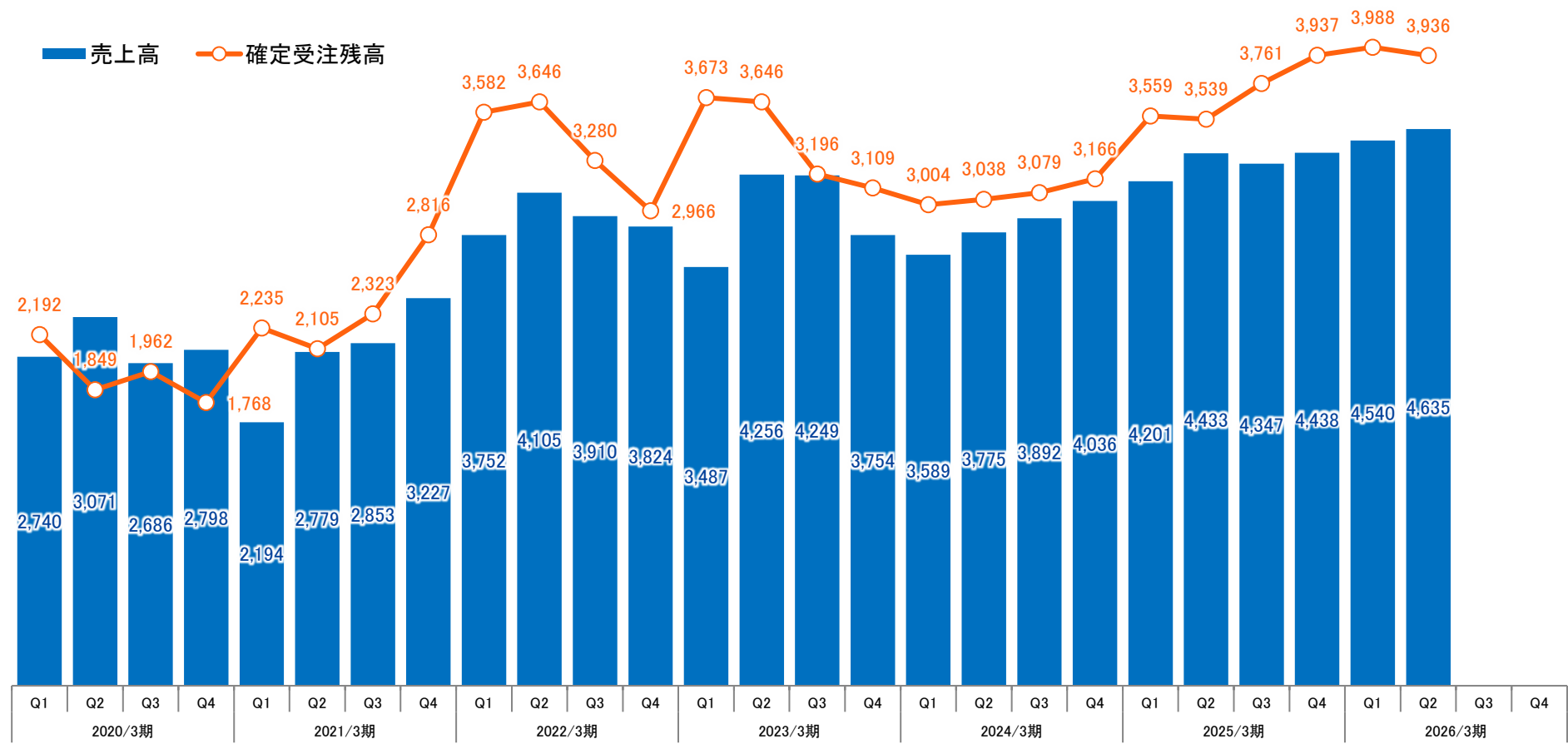
- ◆ 為替感応度は $\Delta 0.25$ %、営業利益への影響額は軽微



取引通貨の約7割は J P Y

確定受注残高と売上高の推移 (建機用フィルタビジネス)

(単位：百万円)



※ 売上高にはヘルスケア売上を含めておりません。



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 IR部 まで

TEL

045-680-1680

E-mail

ir@yamashin-filter.co.jp